

夷耶馬・鷲巢岳地域の 特徴的な植物群落

乾燥した岩峰の壁面に張りついて生きる夷耶馬の植物群落



イブキシモツケーイワヒバ群落

岩峰頂上部で表土の多くが流失し、著しく乾燥する岩場にはイブキシモツケ、キハギ、カワラヨモギ、ブゼンノギク、オガルカヤ、イワヒバなどが壁面に張り付くように群落をつくっています。

イワシデ群落

乾燥が著しい岩峰の下方でやや土壌が堆積したところにはイワシデ、マルバアオダモ、ホソバヒカゲスゲなどが群落をつくっています。この群落は面積は狭く連続していません。凝灰角礫岩でつくられた耶馬渓地方やこの地域に特徴的な群落です。



この地域は「夷耶馬」の名が示すように、耶馬溪地方の景観とよく似ていて、凝灰角礫岩と凝灰岩とが互層をなした耶馬溪層とよばれる地層から成り立っています。岩峰や崖の斜面は著しく乾燥していて、その厳しい環境に耐え得る植物群落が見られ、耶馬溪地方と共通するものもあります。谷が比較的浅く溪流の水量も少ないので、谷の植生は耶馬溪地域に比べると単調になっています。



その他の群落

この地域に見られる森や林の群落として岩峰の尾根近くには、乾燥に比較的耐えるアカマツ群落やコナラ群落が見られます。またクスギを優占種とする群落もあります。

しかし、これらは全体的に見るといずれも小面積です。常緑広葉樹林としてはアラカシ群落、タブノキ群落、コジイ群落が見られますが、アラカシ群落は伐採を繰り返した二次林です。タブノキ群落は鷺巣岳の台地上と岩壁直下の堆積土壌の上に見られ、コジイ群落への推移途上の群落です。コジイ群落は社寺の境内や地形の安定したところに成立した種盛相林ですが、一部、林内にしいたけ栽培用のほだぎが入られ林床が攪乱されています。この地域の潜在植生でもあり、人手を加えることなく自然状態の回復が望まれます。